

部局名

農学部附属農業博物館

担当: 宇田津 徹朗



テーマ

標本から学び実感する「農業と環境とSDGS」

みなさんは、宮崎大学に博物館があるのをご存じですか？  
宮崎大学には、100年近い歴史がある全国でもめずらしい農業をテーマにした「農業博物館」があります。  
農業は、地域の自然環境を利用して、植物や動物の持つ力を引き出し、人類の生存を支える食料を生産する営みです。  
館内には、宮崎を中心とした農業と自然に関する数多くの標本が展示されています。  
「百聞は一見にしかず」、ご来館いただき、SDGSの視点から、農業と環境について、学び、考える機会にしてください



農業博物館



博物館HP

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/museum/>



初代の博物館(1935)



タケの標本



宮崎のサンゴの標本



身近な動物の標本

土壌モリス標本(右)

5mにおよぶ大型の標本です。人類が農耕を始めたおよそ1万年前から現在までの南九州の環境と農業の基本となる土壌がどのように変化して形成されてきたのかを学ぶことができます。

